

5 質問紙調査の結果の概要及び考察

平成23年度は、東北地方太平洋沖地震の影響等により、全国学力・学習状況調査は抽出調査による実施が見送られ、全て希望利用による実施となった。そのため、全国の学習状況を示すデータについては、平成22年度のデータ〔公立学校〕を使用することとし、質問紙調査において質問項目が同内容のものについては、「全国H22」として結果を載せることとする。ただし、全国学力・学習状況調査の対象学年は小学校第6学年である。

(1) 小学校第5学年

ア 勉強について

(単位：%)

		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない	分からない
勉強すれば、私の好きな仕事につくことに役立つ	本県H17	38.2	38.8	9.1	4.3	9.6
	本県H20	43.9	36.6	9.1	3.7	6.7
	本県H23	50.5	34.2	6.8	2.6	5.8
勉強すれば、私のふだんの生活や社会に出て役立つ	本県H17	52.9	33.4	6.3	2.8	4.5
	本県H20	57.5	31.1	5.9	2.2	3.2
	本県H23	61.7	28.5	5.1	1.8	3.0
お父さんやお母さんにほめられるよう、勉強したい	本県H17	34.9	30.8	16.2	14.6	3.5
	本県H20	40.7	31.6	14.4	11.2	2.2
	本県H23	44.9	31.3	12.4	9.3	2.0
先生にほめられるよう、勉強したい	本県H17	31.2	32.8	17.3	14.4	4.3
	本県H20	36.1	34.6	15.5	10.9	2.9
	本県H23	43.2	32.6	12.8	8.7	2.6
ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい	本県H17	48.5	35.4	8.6	3.8	3.7
	本県H20	50.7	34.4	9.1	3.1	2.7
	本県H23	56.4	31.7	7.2	2.8	1.9

勉強については、「勉強すれば、私のふだんの生活や社会に出て役立つ」の項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合が最も高く90.2%となっている。また、「ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」の項目においても、肯定的な意見が88.1%であり、今まで以上に前向きに努力したいと思っている児童が多いことが分かる。

平成20年度の本県調査と比較すると、「お父さんやお母さんにほめられるよう、勉強したい」の項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合が3.9ポイント増え、「先生にほめられるよう、勉強したい」の項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は5.1ポイント増えている。

このように、勉強することの意義を肯定的にとらえ、意欲的に勉強に取り組む姿勢を先生や両親に認めてもらいたいと考えている児童が大半を占めることから、ふだんの授業においては、一人一人の児童のよさや努力を認め、児童がもっているやる気をさらに伸ばしていけるよう、勉強に対する取組方法等を具体的に助言していくことが大切である。

(単位：%)

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう 思わない	分からない ※全国のデータは 「その他・無回答」
国語の勉強が好きだ	本県H17	24.0	32.6	22.6	16.9	3.8
	本県H20	25.4	34.6	22.3	14.9	2.9
	本県H23	27.0	35.8	22.1	12.5	2.6
	全国H22	24.2	37.9	25.1	12.6	0.1
国語の勉強は大切だ	本県H17	56.6	30.5	6.2	3.8	2.9
	本県H20	60.4	28.0	6.2	3.6	1.8
	本県H23	61.7	27.0	6.4	3.1	1.8
	全国H22	64.0	27.6	6.1	2.1	0.1
社会の勉強が好きだ	本県H17	29.1	32.1	21.1	14.5	3.3
	本県H20	30.4	33.4	21.2	12.5	2.4
	本県H23	31.1	33.8	20.9	12.1	2.0
社会の勉強は大切だ	本県H17	55.2	30.2	7.7	4.1	2.8
	本県H20	59.6	28.2	6.7	3.6	1.9
	本県H23	62.4	26.1	6.4	3.3	1.8
算数の勉強が好きだ	本県H17	47.4	26.6	13.6	10.1	2.4
	本県H20	47.1	27.1	14.2	9.7	1.9
	本県H23	44.1	27.8	15.2	10.9	2.0
	全国H22	35.4	28.4	20.7	15.2	0.2
算数の勉強は大切だ	本県H17	66.2	23.6	4.7	3.2	2.3
	本県H20	66.7	23.6	5.1	3.1	1.5
	本県H23	70.4	20.7	4.6	2.9	1.4
	全国H22	71.0	21.1	5.4	2.3	0.2
理科の勉強が好きだ	本県H17	48.6	30.4	12.1	6.8	2.2
	本県H20	51.0	30.3	11.5	5.7	1.5
	本県H23	59.4	26.5	9.0	4.0	1.1
理科の勉強は大切だ	本県H17	45.1	34.1	11.8	5.5	3.5
	本県H20	51.6	31.5	10.0	4.6	2.4
	本県H23	59.6	27.9	7.7	3.1	1.7

「(教科)の勉強が好きだ」という項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は、高い順に、理科85.9%、算数71.9%、社会64.9%、国語62.8%となっている。

平成20年度の本県調査と比較すると、国語・社会・理科において、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合が高くなっている。また、算数において、本県と全国との割合を比較すると、本県が全国を8.1ポイント上回っている。本県の一般的な特徴としては、国語・社会に比べて算数・理科を好む児童が多いという傾向が見られるようである。

「(教科) の勉強は大切だ」という項目と「(教科) の勉強が好きだ」という項目とを比較すると、同じ教科の項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合が同程度であるのが理科である。それ以外の教科では、「大切だ」と考えている児童の割合が、「好きだ」と答えている児童の割合より、19.2ポイントから最大25.9ポイント上回っている。

勉強することが大切だと考えていながら、その教科を好きだと思えない児童がみられることから、授業の導入における課題提示や課題把握などの工夫を凝らして児童の興味・関心を高めるなど、指導の工夫改善を図りながら、分かる喜びやできる喜びが実感できる授業づくりを心がける必要がある。

イ 授業について

(単位：%)

		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半々	分からないことが多い	ほとんど分からない
国語の授業がどの程度分かりますか	本県H17	21.5	48.4	25.2	4.0	0.9
	本県H20	24.3	47.3	23.6	3.9	0.9
	本県H23	23.9	48.0	23.7	3.5	0.9
	全国H22	37.0	45.3		13.8	3.8
社会の授業がどの程度分かりますか	本県H17	23.3	43.4	24.6	7.3	1.4
	本県H20	25.7	43.5	23.1	6.4	1.3
	本県H23	24.9	43.7	24.1	6.2	1.2
算数の授業がどの程度分かりますか	本県H17	40.2	35.1	17.5	5.7	1.4
	本県H20	41.6	34.7	16.9	5.6	1.2
	本県H23	38.4	35.7	19.0	5.6	1.3
	全国H22	42.3	35.7		15.7	6.0
理科の授業がどの程度分かりますか	本県H17	34.3	42.0	18.7	4.1	0.8
	本県H20	37.6	40.8	17.1	3.6	0.9
	本県H23	42.6	39.8	14.3	2.7	0.5

「(教科) の授業がどの程度分かりますか」という質問では、「よく分かる」及び「だいたい分かる」と回答した児童の割合は、高い順に、理科82.4%、算数74.1%、国語71.9%、社会68.6%となっている。

平成20年度の本県調査と比較すると、理科において、「よく分かる」及び「だいたい分かる」と回答した児童の割合が4.0ポイント上回り、算数において、同様に回答した児童の割合が2.2ポイント下回っている。国語・社会においては大きな差はなかった。また、国語・算数において、本県と全国との割合を比較すると、「よく分かる」及び「だいたい分かる」と回答した児童の割合は、国語で10.4ポイント、算数で3.9ポイント本県が下回っている。

「(教科) の勉強が好きだ」という項目で、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合の高い教科において、授業が「分かる」及び「だいたい分かる」と回答した児童の割合が高い傾向が見られる。

○ 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。(複数回答) (単位：%)

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねに行く	友人にたずねる	家族にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
本県H17	24.8	15.1	52.1	55.3	4.0	36.2	13.2
本県H20	22.3	16.4	52.8	54.1	4.0	34.9	13.0
本県H23	21.3	16.1	53.4	55.8	4.3	37.9	13.2

授業の中で分からないことがある時には、「家族にたずねる」と回答した児童が55.8%、「友人にたずねる」が53.4%と高くなっている。

平成20年度の本県調査と比較すると、「自分で調べる」と回答した児童の割合が3.0ポイント、「家族にたずねる」が1.7ポイント上回っており、それ以外の回答については、ほぼ同程度であるといえる。

初めて質問紙調査を実施した平成15年度からの課題となっている「そのままにしておく」と回答した児童の割合が、平成20年度の調査とほとんど変わっていないことから、今後も引き続き、「そのままにしておく」と回答した児童の学習状況を詳細に把握する必要があると思われる。また、授業において分からないことがあった時に先生にたずねやすい雰囲気づくりに努めたり、互いに教え合える児童相互の温かい人間関係づくりに努めたりするとともに、自分で調べながら学習を進めていくことができるよう、一人勉強の仕方等を助言していくことが大切である。

ウ 家庭学習について

○ 学校の授業時間以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか。(単位：%)

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全く、または、ほとんどしない
本県H17	2.7	7.1	24.8	36.7	19.1	9.6
本県H20	2.7	8.5	30.6	36.6	14.9	6.7
本県H23	5.9	16.4	41.4	26.0	7.2	3.1
全国H22	11.4	14.3	32.5	26.5	11.3	3.9

○ ふだん家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。(複数回答) (単位：%)

	ほとんど勉強しない	宿題が出れば、宿題をする	試験があれば、それにそなえて勉強する	予習や復習をする	興味があることについて自分で調べたり、たしかめたりする
本県H17	7.5	75.9	34.0	33.0	23.8
本県H20	5.6	73.7	33.5	36.0	24.8
本県H23	4.8	76.1	35.2	42.3	27.8

月曜日から金曜日までの平日に、学校の授業時間以外に、1日に30分以上(「30分以上」には「1時間以上」、「2時間以上」、「3時間以上」も含む)勉強している児童の割合は89.7%であり、平

成20年度の本県調査と比較すると、11.3ポイント上回っている。さらに、1日に1時間以上（「1時間以上」には、「2時間以上」、「3時間以上」も含む）勉強している児童は63.7%であり、平成20年度の本県調査を21.9ポイント上回っている。一方、「全く、または、ほとんどしない」と回答した児童は3.1%であり、平成20年度の本県調査を3.6ポイント下回っている。このことから、平成20年度の本県調査に比べて家庭学習の時間が長くなっていることが分かる。

勉強時間について、本県と全国を比較すると、平日に30分以上勉強している児童の割合は本県が5.0ポイント上回っているが、2時間以上勉強している児童は、本県が3.4ポイント下回っており、長時間勉強している児童の割合が全国に比べて少ないことが分かる。

ふだんの家庭学習の様子については、「ほとんど勉強しない」と回答した児童は4.8%であり、平成20年度の本県調査と比較すると、0.8ポイント下回っている。それ以外の「宿題が出れば、宿題をする」、「試験があれば、それにそなえて勉強する」、「予習や復習をする」、「興味があることについて自分で調べたり、たしかめたりする」の4項目については全て、平成20年度の本県調査を上回っている。特に、「予習や復習をする」と回答した児童の割合は、6.3ポイント上回っている。

本県児童の家庭における学習の様子が、「宿題が出れば、宿題をする」及び「試験があれば、それにそなえて勉強する」といった受け身の学習から、「予習や復習をする」及び「興味があることについて自分で調べたり、たしかめたりする」といった主体的な学習へと移行していくことができるように、今後も引き続き、家庭や地域社会と連携を図りながら、家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、毎日の授業の中で、分かる喜びや学ぶ楽しさを体験する活動を通して主体的に学ぶ意欲や態度を育てていくことが大切である。

エ 生活について

○ 1日にどのくらいすいみん時間をとりますか。 (単位：%)

	10時間以上	9時間以上、 10時間より 少ない	8時間以上、 9時間より 少ない	7時間以上、 8時間より 少ない	6時間以上、 7時間より 少ない	6時間より 少ない
本県H17	9.9	28.4	37.0	14.5	7.2	2.9
本県H20	9.0	28.6	37.2	15.7	6.9	2.6
本県H23	9.0	27.9	37.8	15.8	6.9	2.4
全国H22	7.7	29.3	37.0	18.2	6.2	1.6

○ 学校に行く前に朝食をとりますか。 (単位：%)

	必ずとる	たいていとる	とらないことが 多い	全く、または、 ほとんどとらない
本県H17	80.2	13.8	4.4	1.6
本県H20	83.8	11.5	3.4	1.3
本県H23	85.1	10.5	3.3	1.1
全国H22	89.0	7.4	3.0	0.6

月曜日から金曜日までの平日に、「1日にどのくらいすいみん時間をとりますか」という質問では、「8時間以上」（「8時間以上」には「9時間以上」、「10時間以上」も含む）と回答した児童の割合は74.7%であり、平成20年度の本県調査と比較すると、0.1ポイント下回っているが、全国と比較すると、0.7ポイント上回っている。

「学校に行く前に朝食をとりますか」という質問では、「必ずとる」と回答した児童は85.1%であり、平成20年度の本県調査と比較すると、1.3ポイント上回っている。

1日の睡眠時間及び朝食の摂取状況について、本県と全国を比較すると、8時間以上睡眠時間をとっている児童の割合は前述のとおり、全国を若干上回っているが、朝食を必ずとる児童の割合は、全国と比較すると、3.9ポイント下回っていることが分かる。

過去の全国調査によって明らかになった主な事項として、家庭での生活・学習習慣と学力との関係等が挙げられており、「家で学校の宿題をしている」といった学習習慣以外に、「朝食を毎日食べている」、「学校に持って行くものを前日か、その日の朝に確かめている」などの基本的な生活習慣と学力との相関が比較的強いという結果が明らかとなっている。

今後も引き続き、各学校においては、基本的な生活習慣を確立した上でそれを学習習慣に結び付けていくといった適切な指導を行っていくことが望まれる。また、家庭や地域社会と連携を図りながら、家庭における児童の望ましい生活習慣の形成を支援していく取り組みも必要であると考えられる。

○ 1日にどのくらいテレビやビデオ・DVD等を見ていますか。 (単位：%)

	4時間以上	3時間以上、 4時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全く、または、 ほとんど 見ていない
本県H23	16.9	17.9	22.8	22.9	15.0	4.4
全国H22	22.8	20.5	24.3	20.9	10.1	1.4

○ 携帯電話を使って通話やメールをしていますか。 (単位：%)

	ほぼ毎日している	ときどきしている	全く、または、 ほとんどしていない	携帯電話を 持っていない
本県H23	3.7	11.0	8.4	76.9
全国H22	9.5	13.6	6.3	69.9

今年度、新たな質問として、「テレビやビデオ・DVD等の視聴時間」及び「携帯電話の使用頻度」に係る項目を設定した。

月曜日から金曜日までの平日に、「1日にどのくらいテレビやビデオ・DVD等を見えていますか」という質問では、「2時間以上」（「2時間以上」には「4時間以上」、「3時間以上」も含む）と回答した児童の割合は57.6%であり、全国調査と比較すると、10.0ポイント下回っている。

「携帯電話を使って通話やメールをしていますか」という質問では、「ほぼ毎日している」と回答した児童は3.7%であり、全国と比較すると、5.8ポイント下回っている。

テレビ等の視聴時間が長くなればなるほど、家庭での学習時間及び睡眠時間が短くなり、生活リズムの乱れにもつながることから、節度あるテレビ等の視聴に係る指導はもとより、家庭との

連携を図りながら、帰宅後の時間の有効活用に対する支援も必要であると考えられる。また、携帯電話の使用についても、低学年から児童の発達の段階に合わせ、情報社会におけるモラルやマナーの育成を含め、情報手段の適切な活用の仕方や有害な情報に接したときの対処方法などについて指導・啓発する情報モラル教育を推進していくことが大切である。

オ 読書について

○ 学校の授業以外で1日にだいたいどのくらい読書をしますか。 (単位：%)

	1時間以上	30分以上、1時間より少ない	10分以上、30分より少ない	10分より少ない	全く、または、ほとんどしない
本県H17	8.2	16.2	30.8	17.8	27.1
本県H20	8.1	16.5	30.5	18.2	26.7
本県H23	10.9	23.0	28.1	15.5	22.5
全国H22	16.3	19.6	26.5	16.8	20.7

月曜日から金曜日までの平日に、学校の授業以外で1日に10分以上（「10分以上」には「30分以上」、「1時間以上」も含む）読書をする児童の割合は62.0%であり、平成20年度の本県調査と比較すると、6.9ポイント上回っている。さらに、1日に30分以上（「30分以上」には「1時間以上」も含む）読書をする児童は33.9%であり、平成20年度の本県調査を9.3ポイント上回っている。一方、「全く、または、ほとんどしない」と回答した児童は22.5%であり、平成20年度の本県調査を4.2ポイント下回っている。

読書時間について、本県と全国とを比較すると、1日に10分以上読書をする児童の割合はほぼ同じであるが、30分以上読書する児童は、2.0ポイント下回っており、長時間読書している児童の割合が全国に比べて若干少ないことが分かる。

過去の本県調査に比べて、読書に親しむ児童の割合が少しずつ高くなってきていることから、今後も引き続き、児童に読書の楽しさを味わわせるとともに、読書活動が生活の中で役に立つということを実感させることが大切である。また、幅広く読書しようとする態度や読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育て、望ましい読書習慣の形成を図るために、「朝の読書」や読み聞かせ、ブックトークなどの読書活動を日常の教育活動に取り入れたり、読書の時間の確保や読書の機会の充実を図ったりすることが大切である。

カ 進学について

○ 将来どの学校まで進みたいですか。 (単位：%)

	中学校まで	高校まで	短大まで	大学まで	その他の学校まで	分からない
本県H17	2.4	31.6	6.3	32.1	9.4	18.2
本県H20	2.1	31.9	7.1	34.0	10.2	14.8
本県H23	1.6	29.0	6.7	39.6	8.8	14.3

進学については、高等学校以上（「高等学校」以上には、「その他の学校」も含む）の学校まで進みたいと考えている児童の割合は84.1%である。その内訳を見ると、高校まで進みたいと考え

ている児童が29.0%であるのに対し、短大・大学までが46.3%となっており、短大・大学までの方が17.3ポイント上回っている。また、大学まで進みたいと考えている児童は39.6%であり、平成20年度の本県調査と比較すると、5.6ポイント上回っている。このことから、少しでも上の学校まで進みたいと思っている児童が増えていることが分かる。

今後は、自らの将来について考える機会等を通して、自分のよさや可能性などに気付き、夢や希望を実現していこうとする態度を育てることができるよう、キャリア教育の推進を図っていくことが大切である。